

会 議 録

会 議 名 称	令和8年度 第1回加古川市立学校校区審議会
開 催 日 時	令和8年4月28日(火) 午前10時00分から午前11時07分まで
開 催 場 所	加古川市役所新館 9階 193会議室
出 席 委 員	宝来 美由紀 日浦 明彦 沼田 圭子 岸本 和美 森 翔太 立本 千寿子
傍 聴 人	なし
会 議 次 第	1 開会 2 教育長あいさつ 3 委員紹介 4 会長及び副会長の選出について 5 議事 (1) 規定及び加古川市立小・中学校の就学状況について ①加古川市立小学校及び中学校校区規則 ②就学すべき学校の変更(校区外・区域外就学) ③児童生徒数及び学級数 (2) 両荘みらい学園における通学区域特認校制度の導入について 6 その他 7 閉会
配 付 資 料	冊子「令和8年度第1回加古川市立学校校区審議会」

審議内容(発言者、発言内容、審議経過等)	
1 開会	
2 教育長あいさつ	小南教育長あいさつ
3 委員紹介等	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員紹介 ・事務局職員自己紹介 ・司会より会議の成立報告
4 会長及び副会長の選出について	<ul style="list-style-type: none"> ・司会より事務局案(会長に日浦委員、副会長に森委員)を提案。 ・委員より異議なしとの声を得て、会長に日浦委員、副会長に森委員を選出。
(会長)	日浦会長あいさつ

<p>5 議事 (事務局)</p>	<p>(1) 規定及び加古川市立小・中学校の就学状況について</p> <p>①加古川市立小学校及び中学校校区規則</p> <p>「加古川市立小学校及び中学校校区規則」及び「加古川市立小学校・中学校の校区を定める要綱」に基づき、小学校及び中学校の校区割について説明・報告。</p>
<p>(委員)</p>	<p>・質疑なし</p>
<p>(事務局)</p>	<p>②就学すべき学校の変更（校区外・区域外就学）</p> <p>「就学すべき学校の変更に関する要綱」に基づき、校区外・区域外就学を許可する基準及び申請・許可状況について説明・報告。</p>
<p>(会長)</p>	<p>昨年度、対応に困った事例はあったか。また、今後、部活動が地域に展開することで想定していないケースが発生する可能性も出てくると考えられる。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>部活動の地域展開に伴い、内部で協議を重ね、部活動が終了したケースに係る規定を新たに要綱別表に設けた。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今後担当部署と協議を重ね、適切な対応を検討していく。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>③児童生徒数及び学級数について</p> <p>本会開催時点が令和8年度児童生徒数の基準となる5月1日以前であるため、令和7年5月1日現在の児童生徒・学級数及び令和13年度までの児童生徒・学級数の推計について説明。</p>
<p>(会長)</p>	<p>資料から児童生徒数が引き続き減少傾向にあることが分かる。</p>
<p>(委員)</p>	<p>・質疑なし</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(2) 両荘みらい学園における通学区域特認校制度の導入について</p> <p>教育総務課より両荘みらい学園における通学区域特認校制度の導入について、学務課より要綱案骨子についてそれぞれ説明・報告。</p>
<p>(会長)</p>	<p>新しい取組であり、課題も出てくると思うが、市としての考えを丁寧に説明いただいた。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>審議会としても、この取組がいい方向に進むよう前向きに議論したい。</p>

(委員)	<p>4月25日の両荘みらい学園保護者説明会を受け、保護者の声としては前向きに捉えているという印象を持っている。</p> <p>加古川市全域から転入学可能ということであるが、都台では新築家屋を建てることができるものの、それ以外の地域は新築できないという現状もある。担当は教育委員会ではないことは承知しているが、市北部の市街化調整区域について、市として地域のこどもたちを増やす方法を考えて欲しい。</p>
(会長)	<p>加西市では住民を増やすために、市街化調整区域を外したという報道もあった。</p> <p>加古川市では北部地域でのそのような取組はないか。</p>
(教育長)	<p>加西市の取組は、弾力的に事業を推進するためのものと捉えている。</p>
(事務局)	<p>市街化調整区域においても、一部では田園まちづくり制度のような弾力的に運用可能な制度があると聞いている。</p> <p>多様な制度がある中で、本件を担当課にも共有し、人口増について総合的に考えていきたい。</p>
(委員)	<p>説明を受け、次年度から多くのこどもたちが大変魅力的な学校に就学することができる選択肢が与えられるこの取組が、明るいものだと感じている。</p> <p>遠方から就学する場合、保護者の送迎にも時間を要することになるが、支援が必要なこどもたちであっても、無理なく通学可能であれば、無条件で就学可能なのか。</p>
(事務局)	<p>公教育という観点から、申込者を選別するという事は考えていない。仮に定員を超過した場合は抽選になると考えている。</p>
(委員)	<p>グローバルな教育を目指す以上、インクルーシブな視点は外すことはできない。特性のあるこどもたちが様々な可能性や夢を持って通学することができる学校となることを期待している。</p>
(委員)	<p>両荘地区に住んでいる児童委員として、地域から2年間両荘みらい学園を見守ってきた。小規模校は小規模校なりのメリットもあり、閉校時は、懐疑的に思うこともあったが、こどもたちが楽しそうに両荘みらい学園で遊んでいる姿を見ると、今は人数が増えたことでこどもたちにいい影響を与えているものと認識している。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>特認校制度の導入については、いい取組であるが、在学中のこどもたちが他地域からの転入学生をうまく受け入れることができるのかという不安もある。また、資料には教員が増加すると書いてあるが、その仕組みを聞きたい。</p> <p>少人数ならではの良さもあるが、多様化が進み、グローバルな考えが必要とされている中、複数のクラスになることで友人関係を固定化せず、交流を広めることができる点も利点になると考えている。</p> <p>他地域からの転入学生とうまく適応できない場合は、教育委員会と学校が協力して環境の整備に努める。</p> <p>教員の配置については、他地域から児童生徒を受け入れることで学級数が増加した場合は、教員が増加するとご理解いただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>様々なこどもたちを受け入れることになるのか分からないが、教員への負担が大きくなるよう考えてもらえないのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>様々な特性を持った児童生徒たちが転入学する可能性があるということは想定しているが、教員の負担軽減につながる対応策については引続き検討を重ねていきたい。</p>
<p>(教育長)</p>	<p>教員への多様な支援は、市内他校でも行われている。例えば、スクールアシスタントが担任を支援するなど、状況に応じた人員配置を行っている。</p> <p>特に前期課程では1クラスとなっている学年が多くなっている。35人を超えれば2クラスとなり、1クラスあたり20人弱のクラス運営となることで教員の負担軽減にもつながるものと考えている。</p> <p>こどもたちの学びの環境を整備することを目指していきたい。</p>
<p>(会長)</p>	<p>教員の配置は市全体のバランスもあり、難しいところであるが、工夫を凝らしていただきたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>報告を聞いて、両荘みらい学園にとってはいい方向性なのではないかと感じている。また、両荘エリアに特化したふるさとみらい科も、新たな形にステップアップされていくものと期待する。</p> <p>一方で近隣の学校にとっては、気になることもある。</p>
<p>(会長)</p>	<p>今後、市内全域としたふるさとみらい科として考えるのか、教育委員会としての方向性はあるか。</p>

(事務局)	<p>現状、主に見土呂地区をテーマとして、自分たちで課題を見つけ、解決するという「探究」という学習の形を取っている。基本的には両荘エリアを学びの場の中心に考えているが、今後、エリアの拡大も検討し、充実を図る。</p> <p>まずは「探究」という学びをこどもたちが理解し、身に付けることが重要である。</p>
(事務局)	<p>両荘みらい学園を魅力的に感じる児童生徒、保護者が他地域から転入学する可能性はあるものと想定はしている。一方で、特認校制度は競争を目的としている訳ではなく、多様な選択肢を増やすことを目的としている。他校においては、各校や地域の魅力など、特色ある学びを尊重し、学校運営をお願いしたい。</p> <p>両荘みらい学園においては、この取組を好事例として、他校にできる限り共有し、市全体の教育水準の底上げにつなげていきたい。</p>
(委員)	<p>教育機会均等の観点からも、この取組はこどもたちにとってメリットがあるものと理解している。</p>
(会長)	<p>この取組が突破口となり、他地域の活性化につながることを期待している。</p>
(委員)	<p>両荘地区と近接する地域では、通学するこどもたちの目の前を両荘みらい学園の通学バスが通行しているエリアもある。通学バスの利用が、両荘みらい学園への転入学を決めるひとつの要因になり、児童が流れてしまうのではという危機感もある。</p> <p>志方地域でも、魅力的な学校運営を行っているが、児童生徒数の減少対策は喫緊の課題である中、この取組により各校の課題がクローズアップされ、保護者にも伝わるのではないかと。</p>
(会長)	<p>地域の思いが醸成されないことには、新しい取組に対する気運も高まらない。</p> <p>統廃合は、学校をなくすことではなく、新しいものを作り上げるという視点を持ち合わせてほしい。</p>
(事務局)	<p>通学は保護者の責任によるものとなるため、通学バスが近くを通過するからといって利用できるものではなく、その運用方法は厳格に考えていく。</p> <p>また、関係者と意見交換する中で、児童生徒数の減少については、地</p>

<p>(委員)</p> <p>7 その他</p> <p>(会長)</p> <p>開会</p>	<p>域でも切迫感がある。地域や保護者、学校、様々な関係者の意見を真摯に受け止め、協議を進めていきたい。</p> <p>両荘みらい学園だけが特化したものとならないよう、例えば、英語授業や田植え体験などに他校のこどもたちも参画できるような取組を考えてもいいのではないか。</p> <p>両荘地域は公共交通機関が少ないエリアであるため、遠方となる南部エリアからの就学なども考え、市やこどもたち、地域にとってよりよいものとなるような学校運営に期待したい。</p>
--	--